

## 解答

- 一 (1) 裏地 (2) 衛生 (3) 承る (4) 郵便 (5) 看病
- 二 (1) エ (2) ア (3) 自己主張 (4) イ (5) ウ
- 三 (1) ① オ ② ア (2) ウ (3) プライベート (4) ⑤ エ ⑥ ア (5) イ  
(6) プライバシーと権と考える (7) ウ (8) 顔色
- 四 (1) 大量のエネギ必要とする (2) ウ (3) 「ま」んべん「なく」  
(4) 背中につばさがはえている (5) イ  
(6) 人間的成熟 (7) エ (8) 自らの中にくり合うこと
- 五 (1) 光吉には、 (2) エ (3) エ (4) ちりもつもればやまと「なる」  
(5) イ (6) ア (7) 千万の大金  
(8) 「古い通帳は、」光吉にとってなにもにも代えられない大切なものだった「から。」

## 解説

- 一 (1) ー行めで「人もまた、一本の樹ではなからうか」と、人を樹にたとえています。そして2行めに「樹の自己主張が枝を張り出すように」とあることから、「枝」Ⅱ「自己主張」であることを読み取りましょう。そのうえで、そうした「自己主張」が「見えない」のはなぜかを考えます。第2連で「枝と枝とが深く交差する」ことを「知らず」にしていることふまえると、そうした「枝Ⅱ（自己主張）」は、自分では気づきにくいものだとは推測できます。
- 二 (2) 「象徴」とは、直接見たりさわったりできないものを、一つの具体的なもので表現することを言います。ここでは、「個性」という目に見えないものを、「顔」という具体的なもので表しているのです。
- 三 (6) まずは傍線部の「こういう視点」の指示内容を読み取りましょう。「プライバシーとは自分のもっている自分の情報は、それを他人に知らせるかどうかを自分で決めること、つまり自己情報の自己管理権、と考えたほうがわかりやすい」と述べていることが手がかりです。これと同じ内容を傍線部より後から探しましょう。
- 四 (7) 才能にそれほど恵まれていない作家は、どんなことを行っているのか、傍線部の周辺から読み取ります。才能に恵まれた作家は無意識的にできることでも、才能に恵まれていない作家は「若いうちから自前でなんとか筋力をつけていかななくてはならない。彼らは訓練によって集中力を養い、持続力を増進させていく」とあります。この若いうちからの訓練によって得られる力が「才能の「代用品」」です。
- 五 (7) 傍線部が、「僕の通帳はあの人夫に見つけてもらえたが、あの人夫も、誰かに見つけてもらえたらうか？」という部分と、「それとも」という接続語でつながっていることに注目します。ここで「見つけてもらおう」とは、人に価値を認めてもらおう（見いだしてもらおう）ことだと考えられますから、見つけてもらえずに「まだ屑物の倉庫の中にある」とは、誰からも評価されない状態のことだと考えられます。